

松平東照宮：本殿と天井画

本殿は松平東照宮の中心的建物であり、最も神聖な場所である。将軍・徳川家康（1543-1616）とともに、松平家の祖先である松平親氏（伝 1394 年没）を祀っている。本殿は 1931 年に建てられた権現造で、江戸時代（1603～1867）の武士階級が好んだ神社の特徴である。つまり、拝殿、祭文殿、本殿が一体となっているが、一般公開されているのは拝殿だけである。拝殿の格子天井には、2015 年に家康公没後 400 年記念事業の一環として、豊田市在住の漆芸家・安藤則義氏（1947 年生まれ）が描いた 108 枚の草花の絵が描かれている。

108 枚の絵は、透明な漆塗りの、下の杉の木が見えるようになっている丸い背景に描かれている。背景の周りや天井の格子は黒漆で塗られている。描かれているのは、白梅、紅梅、竹、菊などの植物で、季節に応じて 4 つのエリアに分けられている。中央の東端の絵には朝日が、西端の絵には満月が描かれている。各角には、松平・徳川家の家紋のモチーフとなった双葉葵が描かれている。この家紋には、実在しない三葉の葵が施されているが、実際には二葉の双葉葵が本殿の外で見ることができる。